八王子市教育委員会 殿

学校名 八王子市立長池小学校

校長名 伊藤 慎敬 公印

令和7年度教育課程について(届)

このことについて、八王子市立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

本校の教育目標は、「社会に開かれた教育課程」の具現化をめざし、児童の実態や地域・保護者の期待、教師の願いに基づき、人権尊重や社会貢献の精神を培い児童一人ひとりの個性・能力を伸ばし、調和のとれた心身ともに健康な児童を目標とし、以下の児童像を定める。

- ◎よく考え 学ぶ子（重点目標）（主体的に考え、すすんで学ぶ児童の育成）
 - ・思いやりをもち、助け合う子（互いを尊重し協力する児童の育成）
 - ・明るく 元気な子（心身ともに健康な児童の育成）

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 確かな学力の育成

- ①課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくむために、各教科等において「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業を実施する。
- ②1人1台の学習用端末による、児童一人ひとりの課題に応じた学習に取り組むことで、児童の学びに向かう力、人間性等の育成を図る。

イ 豊かな心の育成

道徳教育を中心とした全教育活動を通して、自己理解や他者理解を深め、自己肯定感を育むとともに、思いやりをもち、互いに学び合い高め合っていこうとする態度を育てる。

ウ 健やかな体の育成

- ①体力や健康に関わる児童の実態を把握し、楽しく運動に取り組める授業展開や教材の工夫、体力向上の継続的な取組、校庭の整備・活用等を通して心身ともに健康な児童の育成を図る。
- ②食に関心をもち、食を楽しみ、食に関する理解を深めようとする態度を育てる。

エ 不登校児童への支援

八王子市不登校総合対策プラン「つながるプラン」に基づき、全ての児童が人や社会とつながり、自分が認められた存在であると実感できるよう家庭や関係諸機関との連携を強化し、一人ひとりの状況に応じた支援や環境整備の充実を図る。

オ いじめ防止等の取組

八王子市教育委員会いじめ総合対策を踏まえ、教職員組織、家庭、地域や関係諸機関との連携を図り、いじめ問題や児童の悩み等の未然防止・早期発見・早期解決を図る。

カ 特別支援教育の充実

八王子市第五次特別支援教育推進計画に基づき、すべての児童が障害の有無にかかわらず、共に学び、互いに尊重し合い、自立できるような姿勢を育む。

キ 小中一貫教育のさらなる充実 【松木中学校グループ（長池小、松木小）】

- ①八王子市小中一貫教育に関する基本方針に基づき、松木中学校グループ3校が「高め合い、ともにすすんで社会・地域に貢献する児童・生徒」を育成するため、9年間を切れ目なくつなぐ教育活動を推進し、児童・生徒理解や学習・生活指導の充実を図る。
- ②地域運営学校として、3校合同学校運営協議会と協働して、家庭や地域との連携を強化し、地域の願いや特色を活かした教育活動のさらなる充実を図る。

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科（外国語活動を含む）

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、発問の工夫、思考する時間の確保、協働的な学習等を通して、主体的に学ぶ力や考えを深めていく力、論理的な思考力の育成を図る。
- ②小中一貫教育学力定着プロジェクトチームが中心となり、八王子市学力定着度調査等の結果を分析し、児童の学習状況を把握し、はちおうじっ子ミニマムや1人1台の学習用端末を使った個別学習など、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。
- ③1人1台の学習用端末を情報の収集や自分の考えを整理するためのツールとして活用し、自他の考えを共有することで学習の質を向上させる。また、学習コンテンツを活用し、一人ひとりの習熟の程度に合わせた補充問題に取り組み、学力の確実な定着と成果の確認を図る。
- ④外国語科については、「短い時間を活用した教科等指導の時間」においては、1人1台の学習用端末や英語教育推進担当教員を教科担任として、外国語の音声面を中心とした基本的な表現に慣れるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする素地を養う。

イ 総合的な学習の時間

- ①小中学校の接続や地域の特色を踏まえ、各教科等と関連を図りながら横断的・総合的な学習や協働的・探究的な学習活動を工夫し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。
- ②私たちの郷土である八王子の自然環境、伝統・文化、社会生活の中から自ら学習課題を見付けるとともに、探究的な学習に主体的・協働的に取りまわせることで、SDGsの視点から地域への愛情を育み、これからの八王子を担う児童を育てる。
- ③地域や郷土への愛着を深めるために、八王子の歴史を学ぶ郷土学習を実施する。低学年では、地域の長池公園を活用した生活科の学習を実施する。中、高学年では、八王子市の養蚕農家を訪ね、養蚕について学ぶ学習や八王子と日光の関わりに等について学ぶ学習等を実施する。

ウ 特別活動

- ①話し合い活動や係活動を通して、学級や学校での生活作りに主体的に関わり自己を活かそうとするとともに、希望や目標をもち実現に向けて日常の生活をよりよくしようとする態度を育成する。
- ②代表委員会を中心に行う、「ふれあい集会」を実施し、「いじめ防止」や「あいさつ」などについて、児童の自主的、自発的な活動を充実させる。
- ③遠足や集団宿泊の行事を通して、児童の見聞を広めるとともに、より良い人間関係の構築や、集団生活の在り方、公衆道徳などについて体験的に身に付けられるようにする。

(2) 「特別の教科 道徳」を要とする道徳教育

- ①「思いやりをもち、助け合う子」の実現に向け、児童の実態や地域の課題、保護者や教員の願いに基づいた、より実践的な道徳教育を計画的に推進する。特に、生命の尊さ、親切・思いやり、善悪の判断を重点指導項目とし、家庭・地域と一体となった心の教育を推進する。
- ②「道徳授業地区公開講座」のテーマをより身近な児童の実態や地域社会の課題に求め、学校・家庭・地域の連携を深め、三者が一体となって児童の心の教育の充実を図る。
- ③道徳教育全体計画、年間指導計画及び別葉をもとに、主たる教材である教科書、東京都道徳教育教材集の活用により多面的・多角的に深く考えたり議論したりし、児童一人ひとりが自己を見つめ、主体的に道徳的実践力を身に付けられるようにする。

(3) キャリア教育

- ①「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりして自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を身に付け、自己実現につなげていく。また、学期末には、「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を家庭に持ち帰り、保護者がコメントを記入するなど、家庭との連携を通して、将来の生き方や自分自身の成長について考える機会とする。
- ②せいがの森こども園、松木小学校、松木中学校等近隣校との交流、連携を通して、自らの成長を自覚し、将来への希望や夢をもてる児童を育てる。
- ③南大沢学園ビルクリーニングコースを選択している生徒の教科学習の場として校舎を提供するとともに、児童にその学習を見学させることでキャリア教育の一環とする。

(4) 特別支援教育

- ① 都立特別支援学校等との副籍交流や特別支援学級との交流、共同学習、学校行事などへの参加を通して、互いに相手を思いやる心と共に生きる姿勢を育む。
- ② 特別支援教室の巡回訪問指導の充実を図るとともに、スクールカウンセラー、学校サポーターや外部支援機関との連携を深め、学校生活支援シートや個別指導計画を活用した組織的・計画的な取組により、1人1台の学習用端末の活用、指導方法の工夫、合理的配慮等、児童一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導や支援体制を構築する。

(5) 生活指導

ア 生活指導

- ① あいさつ運動や浄瑠璃祭り等、青少年対策松木地区委員会やながいけ会等の活動への参加を促し、地域及び保護者と連携し、礼儀や感謝、奉仕の心、敬愛の情等を育て、児童の健全育成を図る。
- ② 児童の実態や保護者の願い、社会の状況等に即して学校生活のきまりの改善を図っていく。
- ③ 「生命（いのち）の安全教育」を全学年で各教科等の指導に位置付け、実施する。

イ いじめ防止等の取組

- ① 週に1度の学校いじめ対策委員会を中心とした校内体制を確立し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を組織的に行う。また、月に2回～3回、「児童と向き合う時間」を設定し、児童の生活面の悩みや学習面の悩みなどに対応する時間とし、いじめ総合対策の一つとする。
- ② ふれあい月間の取組では、児童アンケートやQ-U アンケートを活用しながら、よりよい児童の関わり合いを促す。また、いじめ防止の児童の主体的な取組として、代表委員会主催のふれあい集会を設定し、スローガン作成を通して、いじめの未然防止に取り組む。
- ③ 「八王子市いのちの大切さを共に考える日」を設定し、校長の講話とともに、全学級で「生命の尊さ」を重点項目とした道徳科の授業を行う。

ウ 不登校児童への支援等

- ① 各担任と生活指導主任、管理職とが連携し、「個票システム」の活用により不登校傾向の児童の実態を把握し、毎週情報共有や対応策の検討の機会を設け、登校支援コーディネーターを中心としたスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる教育相談体制を充実。
- ② 学習用端末のWEB会議システムを活用した面談や学習サポート、別室や放課後を活用した登校支援など、保護者との連携のもと、一人ひとりの状況に応じた支援を充実させる。

(6) 特色ある教育活動

ア 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組

- (取組1) 中学校での1日授業体験。はちおうじっ子サミットによる児童会・生徒会の交流。
- (取組2) 小中一貫教育の日を中心とした学力定着プロジェクトチームによる9年間を見通した教育活動、また小学校の夏季学習教室に松木中の生徒が参加するなどの合同活動の実施
- (取組3) Q-Uの結果及び、担任による小中一貫教育の日を中心とした学期ごとに内容を重点化して児童・生徒の実態把握、共通理解、共通取組の検討
- (取組4) 青少年対策松木地区委員会など、地域と連携した年3回のあいさつ運動の実施
- (取組5) 地域学校協働活動推進委員による松木中学校グループで連携した漢検などの取組の実施

イ 学力向上の取組

- ① 朝学習の時間を活用し、第1学年から第3学年は、計算や漢字などの学習に取り組む。第5学年から第6学年は、外国語の音声面を中心とした学習の時間とする。
- ② 「はちおうじっ子ミニマム」を活用した社会生活を営む上で最低限身に付けるべき基礎的・基本的な学習内容の確実な定着に向け、夏季休業期間中に「夏休み学習会（補習教室）」を実施し、児童の学力向上を図る。また、長期休業期間中や土日には、学習用端末を持ち帰り、家庭と連携し、個に応じた学習コンテンツに取り組み、一人ひとりの学力の定着と向上を図る。

ウ その他

- ① 「八王子市版 情報活用能力系統表」を基本とし、ICT機器活用の資質・能力の育成を図る。
- ② 近隣保育園、幼稚園との保幼小連携の日による情報共有や、スタートカリキュラムを活用したことによる円滑な小学校進学を図る。
- ③ 長池小学校2020レガシーとして、体育委員会の児童が中心となり「ながいけアミューズメントパーク」を休み時間に実施し、運動に親しむとともに、健康の保持増進、体力の向上を図る。
- ④ 3校合同学校運営協議会が主催する「浄瑠璃祭り」に実行委員会、長池小学校保護者組織「ながいけ会」と連携し、児童の参加を促すことで、子どもがよりよく成長する機会とする。